

須賀連合町会の活動は8年を経過しました。この間の活動を通して、三町会の一体化を進めてまいりました。総会を迎えるに当たり、令和2年度の報告と令和3年度の事業・予算計画をご案内します。

コロナ禍状況により書面表決方式とさせていただきます

※会員様は、別途回覧にて「承認」「否認」の表決をお願いします。

令和2年度概要報告

令和2年度は、「新型コロナウイルス拡大」の影響下予定していた総会は書面表決方式に、そして地域の盆踊り・秋祭り他計画行事が軒並み中止となりました。そんな中で、「情報誌すが」は予定通り2回発刊して10号を数えました。又「農空間づくり協議会」活動では、家庭菜園の募集を行い希望者が今春から始められます

令和2年度会計報告

単位(円)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	632,762	助成金・祝儀等	150,000
町会分担金合計	594,100	盆踊り負担金	0
		盆踊り近隣祝儀	0
		秋祭り負担金	0
		消防団助成金	130,000
		歳末特別警戒寸志	10,000
須賀東町会	227,100	出初め式祝儀	0
須賀西町会	214,500	神宮寺運営管理会費	10,000
須賀台町会	152,500	資産管理費	0
預金利息	7	備品・消耗品等	11,654
		設備、備品代	0
		文具事務用品代	220
		印刷費	11,434
		会議費等	2,984
		研修・会議費	984
		交通費	2,000
		情報誌・年2回	100,000
		租税公課	0
		その他 農空間づくり協議会 準備金・協賛	0
(収入計)	594,107	(支出計)	264,638
		次年度繰越金	962,231
合 計	1,226,869	合 計	1,226,869

令和3年度事業計画概要(案)

今年度は、コロナ禍の減少そして収束を願い従来の地域の伝統行事(盆踊り・秋祭り)を行いたいと強く思うところです。しかし、現下の状況ではむしろ昨年中止した際より増加傾向です。今後状況を考えてご案内します。

又、「情報誌すが」は更なる誌面充実に取り組み発刊します。そして「農空間づくり協議会」活動が地域にねざした活動につながるよう進めてまいります。

令和3年度予算計画(案)

単位(円)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	962,231	助成金・祝儀等	430,000
町会分担金合計	583,500	盆踊り負担金	60,000
		盆踊り近隣祝儀	30,000
		秋祭り負担金	150,000
		消防団助成金	130,000
		歳末特別警戒寸志	20,000
須賀東町会	216,500	出初め式祝儀	30,000
須賀西町会	214,500	神宮寺運営管理会費	10,000
須賀台町会	152,500	資産管理費	5,000
預金利息	7	備品・消耗品等	18,000
		設備、備品代	3,000
		文具事務用品代	5,000
		印刷費	10,000
		会議費等	10,000
		研修・会議費	5,000
		交通費	5,000
		情報誌・年2回	100,000
		租税公課	5,000
		その他・予備費	5,000
(収入計)	583,507	(支出計)	573,000
		次年度繰越金	972,738
合 計	1,545,738	合 計	1,545,738

情報誌すが編集委員

編集長：井上利夫 発行者：連合町会長 田中義記

編集委員：谷口均、高田寛教、松永勉、

阪井ひとみ、林澄子、楓綾子

編集委員を募集しています。



編集部 E-mail QRコード  
ご意見記事投稿は、コチラへ  
suga.hensyu@gmail.com

情報誌



須賀

発行

令和3年4月20日  
須賀連合町会事務局  
編集責任者 井上利夫  
発行責任 田中義記  
須賀2丁目10-30  
TEL: 28-1997

須賀町 住民数 2,661人  
3月現在 世帯数 1,277世帯

連合町会あいさつ



令和2年はコロナ禍に苛まれた1年でした。盆踊り、秋祭り、歳末ふれあいサロン等地域のイベントや町会の総会や会合等が残念ながら軒並み中止となりました。それは今も大きくは変わりません。こういった事業を再開するには、減少傾向に転じていなければ昨年の中止と整合性がとれません。令和3年は、収束を願い、以前の風情を取り戻したいものです。何とか今一度対策強化を続けられ収束への歩みを示したいと思います。

令和3年総会も現下の状況を鑑み「書面表決総会」とさせていただきます。会則の変更

令和3年度 須賀町関連団体 新役員紹介

たかた ひろたか  
須賀東町会長 高田寛教

須賀東町会長を務めさせていただく高田寛教です。私も30年須賀に住んでおりまして、これを機に皆様のお役に立ちたいと思いました。これから皆様との“つながり”を大切に努めてまいります。よろしくお願いいたします。

もみじ あやこ  
須賀台町会長 楓綾子

本年4月より、須賀台町総代をつとめさせていただきます。新型コロナウイルス感染症予防対策をとりながらも、地域のみなさまが、つながりを感じ、行事が再開できる日を目指して努力してまいりたいと思います。

やまもと あきこ  
須賀西子ども会 会長 山本 晃子

子ども達が笑顔で楽しく過ごせるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



令和3年度 須賀の主な行事

須賀地域の主な事業予告(都合により変更の場合もあります)

●小学校の運動会(錦郡小学校・伏山台小学校)10月末頃予定

●町内清掃

須賀東町会 5月23日(日) ●須賀東町会年末大掃除 12月19日(日)

須賀西町会 5月23日(日) ●水利組合の水路清掃 8月1日(日)

須賀台町会 7月11日(日)

●合同防災訓練 9月(日程未定)

●盆踊り 7月25日(日)

●秋祭り 10月9日(土)～10日(日)

●地藏盆 須賀東・西町会 8月23日

雷地藏尊 7月20日

●金剛中学校区すこネットフェスタ 11月13日(土)

●二中校区(錦郡小校区)クリーン作戦 11月20日(土)



きれいに手入れされた滝谷駅の花壇

(提案事項) 会則変更

法人格取得の連合町会は末永く継続していく必要があります。そこで従来の会長の呼称を代表にして、先人が作られ機能している「当番町会」制度とリンクすることによってスムーズな運営が出来ると考えます。

新型コロナワクチンに便乗した詐欺に注意!

金銭や個人情報を、電話やメールで求めることはありません





## 吉村市長と懇談

吉村市長との懇談会は令和元年8月に続き、今回は2回目の懇談会となりました。地域情報誌「すが」10号 発刊記念の報告と、「須賀農空間づくり協議会」の今後の展望などについて意見交換を行いました。



### 地域情報誌「すが」10号発刊に際して

6年前、市の「元気な町づくり」企画応募を契機に始まった情報誌の発刊が10号を迎えたことに、市長から「地域情報誌を発刊して、もう10号になるのですね」とねぎらう言葉がありました。

須賀町代表から須賀地域の実情と地域情報誌「すが」発刊に際し、これまでの取り組みなどの説明をしました。その中で、①同一地域で小学校が「伏山台小」と「錦郡小」に分かれていること、②中学校でも「金剛中」と「二中」に分かれている実情を説明。これらを踏まえ、地域の繋がりを醸成するためには地域情報誌の必要性をアピール。情報誌の継続発刊に対して、助成の支援をお願いしました。これに対し、市から「助成の基準はあくまで新規発行で継続発刊は対象ではない」との回答がありました。

### 地域コミュニティ、子どもの見守り、農地を守る重要性

誌面で紹介している「新任校長・教頭（小中学）の挨拶」に市長は興味を示され、「市の企画である『校区数珠つなぎ』の趣旨に沿っており、地域コミュニティ、見守り、農地を守るなどの取り組みを公民連携協定など民意の力を生かせるような仕組みを検討したい」考えを示されました。

### これからの地域情報誌の役割

懇談会に参加したメンバーから「情報誌の編集に関わることで歴史(古地図、石碑など)を詳しく知ることができ、後世に伝えていきたい」「須賀の良いところや川柳など地域を盛り上げる企画をしたい」「地藏盆や町会などの行事を伝承したい」など、地域活動への貢献の意思表示を市長に伝えました。市長からは「ぜひその思い伝えて欲しい」と激励がありました。また、町会の脱退や新規加入が少ない状況に対して、「地域情報誌が未加入住民と情報

## 川柳募集

情報誌「すが」の発行6年をむかえ今回から川柳のコーナーを設けました。みなさまの投稿を募集いたします。

須賀に住んでいて日頃感じられるお気持ちを、川柳に表してください。子どもさんの作品も「学校」や「あそび」のことなどの川柳は大歓迎です。作者は本名でもペンネームでも掲載いただけます。情報誌発行の2ヶ月前、2月末・7月末をメ切とします。

投稿方法は、下記参照。掲載については、編集委員が責任をもって行います。多くのご応募お待ちしております。

川柳の基本は  
右記サイトを  
ご参考に

川柳入門講座

### 応募方法

- 裏表紙の編集委員へお渡しください
- いこいの家のポストに投函してください
- E-mail で、suga.hensyu@gmail.com へ  
(右記 QR コードをスマホで読み込んで下さい)



が共有できれば良い」と考えを述べられました。

### 須賀・農空間づくり、貸農地で緑豊かな須賀に

農空間づくり協議会代表から「遊休農地を住民の方に家庭菜園として利用する計画」を報告。子ども達に野菜作り経験をさせたい家庭や趣味で野菜作りをしたい方々に、貸農地を提供する事業を説明しました。市長は「個人で貸農園をしている所は多く聞くと、地域ぐるみで取り組んでいる地域は珍しい」と感想を述べられました。

### ため池の洪水対策などの問題

市担当者から「ため池の状況の説明の中で、須賀周辺には大池、小池、つづ池、今池の4池がある。洪水対策やハザードマップ作成など災害対策に取り組んでいるが、持ち主の池もあり整備が進んでいない。さらに防止基準が厳しくなり、国や府からの補助金を受け、水害が発生しないよう池の水位を下げる対策を施している」との説明がありました。

農空間づくりメンバーから「田畑農地を持続させるには池の水が必要である。一方、整備されていない池は水害の心配がある」と悩める問題を伝えました。

### 災害時、須賀町の避難先について

自然災害などの場合、須賀の避難先(小中学校)は遠方にあることで、高齢者などは自力で避難するには困難な面があり、地域において一時避難の場所や食料備蓄など検討する考えを伝えました。

### 地域の良さや伝統文化の伝承

最後に市長より「須賀町が取り組んでいるだんじりや盆踊り、他の行事も含めた行事など地域の良さを伝承して欲しい」と要望がありました。また、「遠方から来られた方々に、寺内町や田畑が広がる田園がある富田林を褒めて頂けるような豊かさを残したい」考えを示されました。

市長に情報誌「すが」に激励、応援メッセージの投稿をお願いしました。懇談出席者一人一人の話を受け止めて頂いた市長に感謝します。

## 須賀町内 クラブ・教室 紹介シリーズ① 「パソコン教室」

情報誌すがでは、今号より、町内のクラブ・教室シリーズを掲載します。1回目は「パソコン教室」です。

令和元年11月から「須賀憩いの家」で始めています。来年度、政府は「デジタル庁」の新設を計画しています。又、コロナ禍もあって、いろんな面でキャッシュレスやデジタル化が進んでいます。アナログからデジタルへ、紙ベースからデータ化へと移行していきます。そんな中、パソコンでデータ管理・使用・情報発信入手等共有化が今後益々図られていくと思います。

当教室では、生徒さんのレベルに合わせて個別指導をしています。普通のスクールと違うところは、カリキュラムはありません。『やりたいこと』をお聞きし、その目標にむけてオリジナルのカリキュラムで進めていきます。



開校日	毎週日曜日(予約制)10時～16時頃	1レッスン90分
受講料	チケット制 3レッスン4,000円	
	※1レッスンのみ受講希望の場合は1,400円	
	★無料体験レッスンあり	
連絡先	パソコン教室 ここねっと 講師：石村美代子 (連絡先：090-5467-4912)お気軽にお問合せください	

### ・・・生徒さんの声・・・

- ★MOS 資格取得まで自分のペースでゆっくり丁寧に学べました。自分のスケジュールに合わせてレッスンに通えたので無理なく続けられました(Nさん)
- ★コロナ禍問題でそろばんの授業ができなくなり、授業DVDの作成とリモート授業の確立を、きめ細やかに指導していただき、9月からリモート授業をしています (そろばん講師Oさん)
- ★先生が優しく、堅苦しくないの、わからないことは何でも聞ける雰囲気です。いつも幅広い年代、色々な目的の方達と楽しく勉強しています (Aさん)



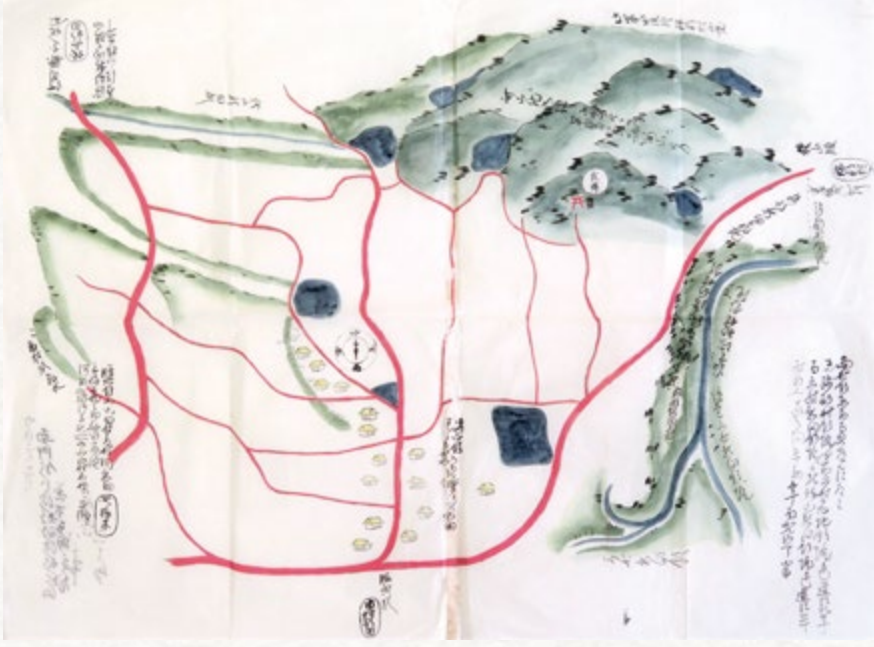
レッスン風景(コロナ対策しています。)

## コラム須賀の歴史「絵図」

文中に当時使用されていた不適切な表現がありますが、編集部で討議した結果、当時の言語文化を使用する事も歴史の事実として認識するべきとしました。

今回は、富田林市の文化財課で管理されている須賀(錦郡新田)の絵図を提供いただきましたのでご紹介いたします。絵図は、錦織の田中家から富田林市に寄贈されたもので、明治2年(1869年)に作成されています。

絵図には、池や神社や民家が描かれており、周辺の土地として東西南北の村の名前(東・錦郡村 西・市村新田の飛び地 南・市村新田 北・伏山新田)が記載されています。東西1丁(109m)南北2丁半(273m)、の中に民家が点在していま



す。ため池は、現在の大池・小池・今池・筒池・新池・尼池などがあり、現在の位置と符合します。東北の山手に鳥居が描かれています。村の氏神様(天満宮社)は、須賀台が開発される前の位置と符合しています。

江戸時代から明治にかけて須賀の状況を付け加えてお伝えします。江戸時代の初期から須賀は、旗本甲斐庄の領地が大部分であり、一部が狭山藩北条氏の領地となっていました。享和2年(1802年)の資料によると、錦郡新田では民家が51軒(うち狭山領8軒)と記録されています。(明治9年の資料では、須賀の人口は208人) 錦郡新田には、7ヶ所のため池があり232石の生産量がありました。

新田では米麦の他、もめん、たばこ、大豆、小豆などが栽培されていました。氏神は菅原道真を祭った天満宮を祀り、9月9日に祭礼を行っていました。神宮寺で、大念仏宗の極楽寺の末寺として活動していました。百姓以外に、左官、大工、屋根ふき、鍛冶屋、酒造りなどが住んでいました。記録では、髪結いの費用は、一人当たり麦2升、米2升と記載されています。